

人と地域を繋げる 多久山笠

祭りですべてを盛り上げる

多久市内最大の夏祭りとして毎年、多くの来場者が訪れる「多久山笠」。豪華絢爛な人形山車と、提灯山車の迫力の曳き廻しで多久駅周辺は帰省客や市内外を問わず多くの人で賑わいます。

明年、70回の節目を迎えるにあたり、「多久山笠を市全体の祭りにしよう」と、山笠に携わるみなさんに意気込みを伺いました。



伝統の祭りを

未来に繋ぐ

多久山笠の淵源は^{えんげん}大正時代の末頃に行っていた大綱引きに遡ります。筋原にある天徳寺の「天徳寺大師祭り」の協賛行事として行い、大変賑わっていたようです。

昭和23年から人形山車を曳く「筋原山笠祭り」が始まり、昭和55年に四角提灯山が登場しました。昭和62年に砂原区が加わったことを機に、地域の祭りから市全体の祭りにしたいという思いを込めて、「多久山笠祭り」に名称を変えました。

この時から人形山車が2台になり、その後三角提灯山車も運行するようになりました。

勇ましい武将を華やかに飾った人形山車は迫力があり、近隣の子どもたちがお囃子に合わせ、「エンヤ〜」のかけ声で曳き廻していきます。

祭りの見物で盛り上がる、提灯山車は若衆会が担い、力強い



▶初期頃の多久山笠

私にとって、多久山笠は生きがいです。携われることが幸せだと思っています。来年の70回をさらに魅力ある祭りにしていきたいですね。

▼初期頃の集合写真



取材協力
多久山笠保存会
とりい かつひさ
鳥井勝久 会長

